

別記第2号様式

平成17年度中間評価調査書

機関名 アイヌ民族文化研究センター

整理番号	1	研究課題名	アイヌ史関係新聞記事資料に関する調査研究(釧路地方)				
事業区分	重点領域・一般試験等 一般試験	研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
共同研究機関 (協力機関)	なし						
研究期間及び 所要見込額(千円)	16年度～20年度	前年度以前	当年度	翌年度以降	全体所要額		
		293 ( 293 )	279 ( 279 )	650 ( 650 )	1.222 ( -財 1.222 )		
研究の概要							
<p>研究背景</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新聞記事、特に地域の新聞は、その土地の生活文化や住民の意識などがより多く反映されており、アイヌ史研究にとって重要な資料群の一つである。しかしながら、こうした地域の新聞記事がアイヌ史の資料という視点のもとに調査されることは少なく、アイヌ史研究の推進及び地域の歴史の学習・調査研究にとって、これら基礎的資料の整備は大きな課題の一つとなってきた。</li> </ul> <p>研究目的</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>戦前に北海道の各地で発行された新聞に掲載されているアイヌ関係記事を調査・収集し、その内容を整理・分析することで、近代アイヌ史の基礎的資料を整備し、各地域のアイヌの歴史を明らかにする。</li> </ul> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域紙におけるアイヌ関係記事の調査・収集・分析を行う。</li> <li>前回は近代を通じて統計上アイヌの人口がもっとも多い胆振・日高地方について調査を行った(平成13～15年度課題)が、今回は統計上の人口も比較的多く、かつ新聞資料の残存状況が良好(1901年以降約40年分の新聞が残っている)である釧路地方を対象とする。</li> </ul> <p>年次別目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H16～19年度 1901～10年、11～20、21～30、31～40年発行分の調査。</li> <li>H20年度 1941年以降発行分の調査及び補足調査。成果の取りまとめ。</li> </ul> <p>研究計画の適切性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標を基礎的資料の整備に据えていること、道内の各地域について逐次的に進める計画の中で、アイヌ人口の最も多い胆振・日高地域に続いて、アイヌ人口も比較的多く紙面に他地域の情報も豊富に掲載されている釧路地方の新聞記事資料に着手したことは、いずれも適切な判断と考える。期間、経費等も、研究調査対象となる資料の分量に照らして妥当である。</li> </ul>							
研究の進捗状況							
<p>研究計画に照らした進捗状況・目標達成度など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業は予定どおりに進捗しており、当初の目標を達成できる見通しである。</li> </ul> <p>年次別実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>H16年度 1901～1912年分までを調査済(一部欠あり)</li> <li>H17年度(7月まで) 1913～18年分までを調査済み。</li> </ul>							
今後の見通し							
<p>研究開始後の事情変更の有無</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成15年度において、国学院短期大学及び北海道大学文学部から、それぞれ『小樽新聞』(明治期のみ)と『樺太日日新聞』(戦前分)のアイヌ関係記事(樺太日日新聞の場合はサハリン先住民族関係全般)の目録及び主要記事の翻刻が公刊された。これらは、本研究課題に関連する研究成果が新たに加わったことを意味するものであり、アイヌの歴史に関する基礎的資料としての新聞資料への着目が高まっていることを示すものである。ただし、これらは全道規模の新聞及びサハリンの新聞であり、かつ札幌市内でマイクロフィルムによる調査が可能なものである。当センターがこの研究課題において掲げている、道内各地域の新聞資料、特に各地域に散在する資料について直接調査するという調査研究の必要性は、依然として変わりないと考えられる。</li> </ul> <p>研究手法・資源配分の見直しの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> <li>期待される成果とその実現可能性、成果の有益性・活用可能性</li> </ul> <p>調査研究の成果は、収集した新聞記事の目録と重要な記事の翻刻及びそれらの解説を併せてとりまとめて公刊する。この間の調査においても、従来の研究ではあまり知られていない内容の記事などが明らかになっており、成果目標は十分に実現可能であると考えられる。この成果は、従来のアイヌ史の調査研究に関する基礎的な条件整備の一環となるものであり、アイヌ史・地域史の研究・学習のための基礎的資料として活用されることが期待できる。</p> <p>収集した新聞記事のデータは、研究センターにおいて蓄積・作成を続けている新聞記事目録に組み込むとともに、引き続きその拡充を図る。将来的にはより網羅的・総合的な目録に人名やキーワードによる検索機能などを備えたデータベースを作成し、これを提供することによって、アイヌ史の学習・研究に大きく寄与することができると考えられる。</p>							
【自己評価】	【説明】 本調査研究は、釧路地方の地域史に焦点を当てた調査実績の少ない分野であり、アイヌの地域史を研究する上で新たな知見も期待でき、引き続き取り組む必要がある。						
(A) B・C							
【総合評価】	【意見】 当時の釧路地方における、アイヌの人々の活動や関連する地域社会の動向などについて、地域新聞の紙面調査と検討を通じてアプローチする有用な研究であり、今後一定の研究成果が期待できることから、継続して取り組んでいただきたい。						
A (B) C							

直近の研究課題評価結果  
平成15年度 事前 評価  
【自己評価】 (A)・B・C  
【総合評価】 A・(B)・C

進捗度・目標達成度 (a)・b・c

期間の妥当性 (a)・b・c

経費の妥当性 (a)・b・c

実現の可能性 (a)・b・c

活用の可能性 (a)・b・c

(A) 当初想定していた期間、予算、目標に対して、中間評価時点において、期間、予算の大幅な削減や顕著な研究成果があったもの (a) 極めて高い、適切である  
 (B) 当初の計画どおりに取り組みが進められているもの (b) 高い、概ね適切である  
 (C) 今後の見直し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要なものと及び目標の大幅な見直し・拡充などが行われ、新たな研究として再構築するもの (c) 低い、改善の余地がある